

研究ノート

日中両言語における色彩語の畳語の一考察

—「黒々」と“黒黒”を対象に—

The Reduplicated Words for Colors in Japanese and Chinese:

A Case Study of “kuroguro (jet black)” and “heihei (jet black)”

陳 祥 (Hsiang CHEN)

筑波大学大学院人文社会科学部 博士後期課程

日本語と中国語では、同一の造語要素の繰り返しにより、形成される畳語がある。日本語の畳語「XX」と中国語の畳語「AA」は形成が類似しており、色彩語においても同様に使用されている。例えば、日本語では「黒々」という色彩語の畳語があり、中国語では“黒黒”という色彩語の畳語がある。日本語と中国語における色彩語の畳語は形式の特徴が類似しているが、管見の限りでは、それらの用法と意味解釈がどう対応しているのかはまだ言及されていない。本稿は、日中両言語における色彩語の畳語の用法や意味の対応関係を明らかにすることを目的とする。特に、日本語の「黒々」と中国語の“黒黒”に焦点をしぼり、基本形式「黒」と“黒”についても併せて考察する。

まずは、辞書とコーパスからそれぞれの意味と共起関係を考察する。そして、コーパスから抽出した「黒々」と“黒黒”と共起する名詞を『分類語彙表』に基づいて分析を行う。その結果、「黒々」と“黒黒”は「1.5自然—自然物および自然現象」の場面において、よく使用される傾向が見られることが分かった。また、「黒々」は「1.4人間活動の生産物—結果および用具」の場合において、使用しやすい傾向が見られる。一方、“黒黒”は「1.1抽象的關係」の場合において、使用しやすい傾向が見られる。さらに、「相互作用の性質」という概念を用い、「黒々」と“黒黒”は視覚を通じるものの性質を表す意味にとどまらず、話者の主観的な捉え方などの用法として拡張していることが解明された。

In Japanese and Chinese, words in which the same morpheme repeats itself are referred to as “reduplication.” Reduplications in Japanese and Chinese are similar in form and often occur in words expressing color. For example, in Japanese reduplication is seen in the word *kuroguro* (黒々, “jet black”), while in Chinese the same phenomenon is seen in *heihei* (黒黒, “jet black”). While reduplication in Japanese and Chinese color words are similar in form, previous studies have not yet shown how their usage and semantic interpretation correlate. The purpose of this paper is to define the correlation between usage and meaning of reduplication in color words in both languages. This paper focuses especially on the reduplication of the Japanese word *kuroguro* and the Chinese word *heihei*, and discusses the basic format of the words *kuro* (黒, “black”) and *hei* (黒, “black”).

First, the meaning and collocations of these words were analyzed using dictionaries and corpuses. Then, *kuroguro*, *heihei* and their collocating nouns were extracted from corpuses and analyzed based on “*Word List by Semantic Principles*”. The results of this analysis reveal a tendency for *kuroguro* and *heihei* to be used in category “1.5 Nature: Natural Objects and Natural Phenomena”. Results also showed that *kuroguro* was used more often in “1.4 Manmade Objects Artifacts and Tools”. Meanwhile, *heihei* was used more often in category “1.1 Abstract Ideas”. Furthermore, the concept of interactive properties was used to show that the usage of *kuroguro* and *heihei* has expanded beyond expressing things that can be perceived visually to include the subjective attitude of the speaker.

キーワード：色彩語、疊語、用法、意味拡張、認知プロセス

Keywords: Color Words, Reduplicated Words, Use, Semantic Extension, Cognitive Process

1. はじめに

人間は視覚を通して物事の色を描写する場合、名詞の「黒」や形容詞の「黒い」や疊語の「黒々」などの色彩語を使用している。本稿は、こういった同一の語基を持ち、繰り返しによる色彩語の語間の意味関係を中心に取り上げて考察するものである¹。

日本語では、同一の語基、語または語の一部を繰り返す複合語を「疊語」という（玉村1988、秋元2005、石川2017など）。例えば、「黒々」、「人々」、「白々しい」、「若々しい」などである。日本語の疊語は「XX」と「XX しい」という2つの形成するパターンが抽出できる。中国語は日本語と同様に疊語が存在し、「重疊、疊字²」と呼ばれている。例えば、「黒黒（黒々）」、「黒漆漆（黒くてみにくい）」、「烏黒烏黒（真っ黒）」などである。中国語の疊語は「AA」、「ABB」、「ABAB」などいくつかの形成するパターンに分類できる。日本語と中国語では、同一の造語要素の繰り返しにより、形成される疊語があることが確認される。様々な形成パターンの中で、同一の語基に基づき、繰り返して形成する日本語の疊語「XX³」と中国語の疊語である「AA」が類似しており、また色彩語においても同様に使われている。例えば、日本語の「黒々」と、中国語の「黒黒」が挙げられる。日本語と中国語における色彩語の疊語は形式の特徴が類似しているが、先行研究ではそれらの用法と意味解釈がどう対応しているのかはまだ言及されていない。本稿は、日本語と中国語における色彩語疊語の使用や意味の対応関係を明らかにすることを目的とする。特に、日本語の「黒々」と中国語の「黒黒」を研究対象とし、それぞれ基本形式「黒」と「黒」も併せて、辞書とコーパスから各自の意味と共起関係を論じる。

疊語に関する辞書や先行研究が記述されている説明においては、日本語の「黒々」と中国語の「黒黒」の対応関係が解釈しにくいところがある。以下では、日本語の疊語研究と中国語の疊語研究と辞書の記述を取り上げ、問題点を述べる。

まず、大里（2013）では、オノマトペを除いて疊語になることで生じる意味の変化について考察し、疊語の意味機能には〈強意〉、〈連続性〉、〈複数・多様性〉があると指摘している。禹（2015）では、疊語の〈強調〉用法には、事物に関わる時空数量の強調（例：常々、広々）と事物の様子やあり方に関わる様態の強調（例：黒々、若々しい）の2点が付け加えられると述べている。次に、日本語の辞書の記述を考察する。2001年に出版された『日本国語大辞典』によると、「黒々」の意味は「はなはだしく黒いさまを表わす」である。2012年に出版された『大辞泉』によると、「黒々」の意味は「非常に黒いさま、真っ黒なさま」、さらに、2018年に出版された『広辞苑』によると、「黒々」の意味は「はなはだ黒いさま」である。年代別の各辞書から、辞書における「黒々」の意味記述はあまり変わらないこと、また色の描写が中心であることが分かる。

以上から2つの課題がある。1つは、日本語の疊語の研究は行われているものの、その成果が辞書に反映されていないことである。もう1つは、「黒々」の意味機能が〈強意〉以外に、〈連続性〉、〈複数・多様性〉を表せることである。

上記の課題は中国語にも同様に挙げられる。石（2010）は、中国語の疊語の意味は〈程度〉、〈状態〉、〈強調〉、〈主観性〉、〈類似性〉であると指摘している。その中で、〈状態〉に関しては、田（2014）が

¹ 関連の研究は田（2014）や陳祥（2020）などが挙げられる。

² 朱（1982）や田（2014）などの研究が挙げられる。

³ 日本語の場合は「人々（ひとびと）」、「日々（ひび）」のような連濁形を取る疊語もある。石川（2017）では、疊語の意味を考察する際に、連濁形を取る疊語と連濁形を取られない疊語とを区別せず、全体的に疊語の意味を解釈することを示されている。よって、音韻上には「山々」、「人々」のような疊語が連濁形を取るか、取らないかという区別があるが、意味上には両者が区別されないと考えられる。本稿では、日中両言語における色彩語の疊語の用法また意味解釈がどう対応しているのかを目的とするため、音韻上への配慮を割愛し、論を進めることにする。

単語が重ね形になって生き生きしている状態が描写できると述べている。一方、辞書の記述がどのように反映されているかという点については、管見の限りでは、“黒黒”の記述がなされている辞書は見つからなかった。また、“黒黒”は「黒々」と同様に〈強調〉の意味を表しているが、事物の様子、あり方に関わる生き生きしている様態、状態においてすべての描写表現が対応しているのかまだ明確になっていない。従って、「黒々」と“黒黒”は〈強調〉の意味を表す際にどのような対応関係があるかを究明する必要があるだろう。

本稿では、「黒々」と“黒黒”との対応関係を明らかにするため、各自の意味記述や用法などを考察する必要がある。そのため、まずは「黒々」と“黒黒”の構成要素となる語基かつ基本形式「黒」と“黒”の考察も入れ、辞書における各語の意味記述を抽出する。そして、辞書で記述されていなかった「黒々」と“黒黒”の意味や用法などを説明するため、コーパスによる使用実態を調査する。コーパスから抽出した用例は『分類語彙表』の分類項目に基づき、「黒々」と“黒黒”と共起する語の属性の分布または偏りを明らかにする。さらに、各用法においては、「相互作用の性質」という概念を使い、「黒々」と“黒黒”の意味を解釈する。最後に、現代語における「黒々」と“黒黒”の意味・用法の対応関係を示したい。

2. 先行研究

日中両言語における色彩語の疊語の意味を比較し、対応関係を明らかにするために、先行研究におけるそれぞれ日本語と中国語の疊語の意味記述や用法を論じる。2-1節では、日本語の疊語に関する先行研究（秋元2005、石井2007、禹2015、石川2017）を取り上げ、意味や使用を考察する。2-2節では、中国語の疊語に関する先行研究（王2004、田2014、王2015）を取り上げ、意味に関する記述や用法を考察する。

(2-1) 日本語の疊語研究

日本語の疊語研究は大きく2つに分けられる。1つは秋元(2005)や石井(2007)などの研究における、主に品詞の違いによって疊語の意味が決まると主張するものである。もう1つは、禹(2015)や石川(2017)などの研究における、特定の品詞に限定せず文脈で疊語の意味を捉えるものである。

秋元(2005)では、代表的な疊語の構成パターンとそれが表す意味を分析する。「家々、村々」のような複合名詞は〈多数性〉を表す。「常々」、「日々」のような複合副詞は頻度を表す。「近々、広々」のような複合形容詞は〈強調〉を表す。「泣き泣き」、「生き生き」のような複合副詞〈～シナガラ、～シツツ〉の意味を表す。石井(2007)は複合副詞の意味について新たに説明している。「常々、日々」のような複合副詞は〈頻度〉ではなく、〈時〉を表す。「泣き泣き」は〈継続反復〉を表し、「生き生き」は〈様子〉を表すと提示している。一方、禹(2015)は疊語の意味は構成パターンを問わずに、〈複数〉、〈反復〉、〈強調〉であるとまとめている。さらに、禹(2015)では、〈複数〉、〈反復〉について新たに時間という次元概念を用い、同時的な解釈が強くなる場合と継起的な解釈が強くなる場合がある⁴と述べられている。そして、疊語の意味である〈強調〉に関し、外界に対する話者の積極的な捉え方を反映していると指摘している。例えば、「常々」、「広々」などの疊語は事象・事物に関わる時空数量の強調という性質である、「黒々」、「若々しい」などの疊語は事物の様子やあり方に関わる様態の強調という性質が含まれている⁵。それ以外の疊語機能について、石川(2017)は個々の用例に即して文

⁴ 〈同時的〉な解釈を表す例には「人々は彼女がハイヒールを脱ぎ、それからコートを脱ぐ様子を無言のまま見守っていた」が挙げられる(禹2015:38)。〈継続的〉な解釈を表す例には「そのカメラで午河は、玄関を出入りする人々を何人かためしに撮影してみた」が挙げられる(禹2015:39)。

⁵ 用例と説明は禹(2015:36)から引用したものである。

脈的判断を行い、疊語を〈(事物の) 複数性⁶⁾〉、〈(複数事象の) 反復・継続・頻発性⁷⁾〉、〈(複数事物中の) 個別性⁸⁾〉、〈状況の強調・程度増加⁹⁾〉、〈語調調整¹⁰⁾〉の5つに絞り、分析を行った。

「黒々」の場合は、品詞の違いで意味を分析するのか、または特定の品詞に限定せず文脈で意味を分析するのか、疊語の意味をより詳細に説明する可能性を比較してみる。まずは、品詞の違いによって疊語の意味が決まるかどうかを考察する。以下に具体的な例を挙げて説明する。

- (1) a. 目が黒々と見えます。(NLT¹¹⁾
 b. 目がいかにも黒く見えます。(作例¹²⁾)

- (2) a. 僕は慌てて首を横に振って、自分の中に沸いた黒々とした感情を捨て去った。(NLT)
 b.* 僕は慌てて首を横に振って、自分の中に沸いたいかにも黒い感情を捨て去った。(作例)

石井 (2007) では、「黒々」のような疊語は〈強調〉として意味を表す。(1)における「黒々」は「いかにも黒く見える」に置き換えられるため、〈強調〉の意として表す。一方、(2)における「黒々」は「いかにも黒く見える」に置き換えられないため、〈強調〉の意として表せないと考えられる。よって、「黒々」の意味は形容詞の〈強調〉が説明しきれないところがある。また、「黒々」の場合は複合形容詞「黒い」または複合名詞「黒」と共通の意味である「色相」を表せるため、形容詞か名詞かのような品詞の違いによって疊語の意味が決まるとするには困難がある。

では、(2)のような例文は特定の品詞に限定せず文脈で意味を分析することが可能であろうか。禹 (2015) では、「黒々」は外界に対する話者の積極的な捉え方による事物の様子やあり方に関わる様態の強調を表すと指摘している。品詞成分に限定しない方が、疊語の意味をより詳細に説明することが可能となる。しかし、(2)においては、話者の積極的な捉え方による相手の様子に関わる様態の強調がどうなっているのかを説明することが困難である。

以上の考察により、「黒々」は色を描写する以外に、人間の感覚・感情を描写することも可能であると見なされる。そして、「黒々」は人間の感覚・感情を描写する際に、「いかにも黒いさま」、「非常に黒いさま」に置き換えられない。つまり、「黒々」は〈強調〉という意味以外に、何かの意味が表せると考えられる。

⁶⁾ 「…自分も殺されるかもしれないと言っている人たちの痛みを、我々がどれだけ共有したのか。」文中における「我々」は地上の人間の(ほぼ)全部を指し示し、〈(事物の) 複数性〉に分類されている(石川2017:66)。

⁷⁾ 「多くの人々と出会い、新しい知識を獲得し、さまざまな経験をして、日々、おとなへと近づいている。」文中における「日々」は「近づく」といった連続的変化を含意する動詞と共に起し、全体として反復ないし連続の意味を示している。この場合は〈(複数事象の) 反復・継続・頻発性〉に属する(石川2017:67)。

⁸⁾ 「…使用、廃棄・排出に関して必要な規制を行ってきました。# 個々の化学物質について適正な規制の措置を講じていくことの重要性は…。」文中における「個々」は明示されたいくつかの化学物質を個別に指し示し、〈(複数事物中の) 個別性〉の意味を表す(石川2017:68)。

⁹⁾ 『『東西南北』刊行で勢いを得た鉄幹は、その翌年一月には、早々と次の詩歌集『天地玄黄』を刊行。』文中における「早い」は状態の段階がさらに強められたもので、2冊目の詩歌集を刊行するのに通例想定される時期よりもなおさら早く刊行がなされたことを示す。この場合は〈状況の強調・程度増加〉に分類されている(石川2017:69)。

¹⁰⁾ 「…柚子煉り1本 砂糖大さじ6~7卵黄(照り用)少々。」文中における「少々」は一見、これらは「少し」という程度が増加した例と見えるが、「少々」とは「数量・程度がわずかなこと。少し(ばかり)。ちょっと」という意味とされている(『明鏡国語辞典』第2版からの引用)。この場合は〈語調調整〉という意味を表す(石川2017:70)。

¹¹⁾ 筑波大学が公開している『筑波ウェブコーパス』は、日本語のウェブサイトから収集して構築した約11億語のコーパスである。以下では、NLTと称する。

¹²⁾ コーパスの実例に基づき、者による加筆の用例である。以下では、作例と称する。

(2-2) 中国語の疊語研究

中国語の疊語は AA 型、ABB 型、AABB 型などの形式が見られる。それに関する先行研究は、疊語全体を研究対象として考察するものと、1つの形式に絞って研究対象とするものに分けられる。中国語の疊語の全体像を把握するうえで、研究対象である AA 型がどう位置づけられているのか、特徴がどうなっているのかを考察する。以下では、疊語全体を研究する田 (2014) と AA 型という形式に絞って研究する王 (2004) と王 (2015) を挙げる。

まず、田 (2014) は現代中国語において文法上での特別な語構成手段の一つとして、語の重疊は多く見られる現象であり、名詞、形容詞、副詞、動詞の重ねなどを含むとしている。疊語を形成するパターンは様々であり、AA 型、AAB 型、ABB 型、ABAB 型、AABB 型などがある。田 (2014) は、これらの疊語は単語が重ね形になって生き生きしている状態が描写できると述べている。また、田 (2014) は以下のように指摘している。AA 型に関しては、「A」という形態素は動詞・名詞もあるが、それらはわずかで、ほとんどが物事の姿・状態・性質などを表す形容詞である。一部の単音節名詞を重疊すると、「すべての」という意味になることがある。例えば、単音節名詞 A の“人”からなる AA 型の“人人”は「すべての人、みんな」という意味を表す。形容詞を疊語化することによって、しばしば副詞に転用されて、意味の描写性を高める強調用法がある。例えば、単音節形容詞 A の“大”の「大きい」からなる AA 型の“大大”は「でっかい」という意味を表す。しかし、ある巨大物を修飾する際に、単音節形容詞 A の“大 (大きい)”も使えるし、AA 型の“大大 (でっかい)”も使えると考えられる。中国語においては、物のサイズによる単音節形容詞 A と AA 型の疊語との使い分けが規定されているわけではない。王 (2004) は、単音節形容詞 A と AA 型との使い分けを基準になるのは文脈に現れる比較対象となると述べている。また、王 (2004) では、事物の発話時点の具体的な状況や様子などを生き生きと描写する場合には、中国語の AA 型はある種の「量の増加」を表すと述べている。つまり、王 (2004) によると、増加する量は具体的でなく、はっきりしていなく、比較対象に応じて変動するという。以下に具体的な例を挙げて説明する。

(3) 夜黑黑的, 伸手不见五指¹³。(王2004:26)

(3) では、ある日の夜のことを描写している場面である。文中における AA 型は〈とても暗い〉という意味を表している。王 (2004) では、AA 型が表す増加する量は比較対象に応じて変動すると述べている。(3) の場合は、いつもの夜と比べ、星や月の反射光などの影響を受けず、あの日の夜に限って真っ暗になったことを描写している。そして、「自分の五本指さえ見えていないほどである」という後文を付け加え、AA 型はいつもと異なる暗さを表している。しかし、王 (2015) では、反例を挙げ、AA 型は「量の増減」以外に、他の意味用法があると主張している。

(4) *A 长长的头发, 而 B 只是长头发, 所以 A 比 B 的头发长¹⁴。(王2015:42)

(4) では、A さんの髪と B さんの髪どちらが長いかを描写している。王 (2004) の論点では、A さんの髪を描写する際に、AA 型である“长长 (長々)”を用いることでも増加する量を表せるため、正しい用例であると考えている。しかし、文脈においては、B さんより A さんのほうが髪が長いことが分からないため、(4) は非文となる。以上から、王 (2004) の論点を再検討する余地があると王 (2015) が述べている。王 (2015) では、AA 型と基本形式は同じ範疇に属するわけではなく、基本形式は基本レベル範疇に属し、AA 型は基本形式の下位範疇に属する。AA 型は話者の判断による想定された範疇の中で最も望ましいものを指している。話者の判断により想定された範疇が限られ

¹³ 「夜はとても暗くて、自分の五本指さえ見えていないほどである。」と訳す。中国語から日本語への訳文は全て筆者である。訳文は母語話者によるネイティブチェックを受けている。以下同様。

¹⁴ 「A さんは髪が長い。そして、B さんは髪が長い。よって、B さんより A さんのほうが髪が長い。」と訳す。

ているため、量の幅は基本形式より狭くなる。修飾する対象の範囲が狭くなり、具体的なイメージが生じられる。具体的なイメージが表せるため、意味の描写性を高める意味用法にもなり得ると王(2015)が述べている。

以上の考察により、疊語と基本形式との使い分けがあることが分かった。また、基本形式との比較を通し、疊語の意味をより詳細に説明する可能性を示した。中国語の疊語であるAA型は基本形式の下位範疇に属し、意味用法が限定され、強調という意味を表すとまとめられる。この意味解釈は禹(2015)では、日本語の疊語の意味である強調に関し、外界に対する話者の積極的な捉え方が反映されるとされる。しかし、中国語のAA型には、強調以外の意味解釈が表せる。例えば、「我明显地感觉到悲哀像一阵黑黑的风，冷冷地掠过我挂了一块铁的心¹⁵。(CCL¹⁶)”などの用例が挙げられる。日本語の例(2)のように、人間の感覚・感情を描写することが可能である。「黒々」と「黒黒」は、具体物といった名詞と共に起る用法と、人間の感覚・感情といった名詞と共に起る用法がある。またその他の用法も存在すると考えられる。「黒々」と「黒黒」は、基本的な意味である〈黒色〉に基づいて、「いかにも黒いさま」、「非常に黒いさま」という〈強調〉の意味を表せる。それは、「黒々」と「黒黒」は状態や様子などの外在的な特徴(黒色)ではなく、知覚者から感覚の持ち主を顕在化することができると考える。知覚者から感覚の持ち主を顕在化することによって、「黒々」と「黒黒」の意味がどう変わっていくのか、日中両言語の意味はどう対応しているのかを明らかにする必要がある。

3. 研究方法

本稿では、収集されたデータを分析するにあたり、研究方法として主に『分類語彙表』と「相互作用的性質」というアプローチを用いて分析を行う。前節で述べた日中両言語における色彩語の疊語は、色を描写する用法として〈強調〉の意味以外に、人間の感覚・感情を描写する用法として新しい意味が表せる。言い換えれば、日中両言語における色彩語の疊語は、視覚をはじめ人間の感覚・判断などが含まれ、新たに主観的に意味づけられると考えられる。下記の用例を取り上げてみると、「黒々」と「黒黒」は基本形式と同様に視覚的なものの性質(黒色)を表すことも可能であるが、ものの性質(黒色)を表さないことも可能であることが確認される。

- (5) まだ髪は黒々としている。(『広辞苑』2018:878)
- (6) 妈妈的头发黑黑的¹⁷。(CCL)
- (7) 西宮戎神社の土塀が豪雨にうたれ、黒々と死の闇に見えた。(BCCWJ¹⁸)
- (8) 皮普准呆呆地走到街上，突然觉得失去了一切希望，眼前黑黑的¹⁹。(CCL)

(5)「黒々」と(6)「黒黒」は視覚的な「髪」の色を描写する用例である。(7)「黒々」と(8)「黒黒」は目の前に見える視覚的な状況を描写する用例であるが、色ではなく、「死の闇、恐怖、不安」などの話者の主観的な捉え方を表している。(5)と(6)から、「黒々」と「黒黒」は基本形式である「黒」と「黒」から意味用法が拡張したと考えられる。そこで、河野(2003)が提案した「相互作用的性質」を参考にし、「黒々」と「黒黒」は視覚を通じるものの性質を表す意味にとどまらず、話

¹⁵ 「悲しみは風のように黒々と見えてくる。冷たくて、私の心が冷めている。」と訳す。

¹⁶ 北京大学漢語語学研究中心が公開している『北京大学中国语言学研究中心语料库检索系统:网络版』は、書籍全般、新聞、文学作品などのジャンルにまたがって、現代中国語と古典中国語とを合わせて11億語のデータを対象としたコーパスである。以下では、CCLと称する。

¹⁷ 「母の髪は黒々としている」と訳す。

¹⁸ 国立国語研究所が公開している『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は、書籍全般、新聞、ネット掲示板、教科書などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを対象とした書き言葉均衡コーパスである。以下では、BCCWJと称する。

¹⁹ 「皮普准さんはポーッとしながら道を歩いているとき、突然希望を失ったと感じ、目の前が真っ暗になってしまった」と訳す。

者の主観的な捉え方などの用法が拡張していることを考察する。

対象の性質を相互作用の性質と見なす考え方は、生態心理学をはじめ、社会言語学や認知言語学などで幅広く行われている。従来の考えでは、「事物が何であるのか」ということと、「事物が何を意味するのか」ということについては、前者が物理的で、後者が心理的だとされてきた。しかし、河野(2003)は対象の情報と知覚者の情報が両者を区別せず、対象に内在している本質なるものはありえず、対象のどのような性質も一定の条件や関係性のもとで生じると指摘している²⁰。篠原(2008)では、河野(2003)の考えを参照し、典型的に(情態)形容詞で表される「対象の性質」は知覚者と知覚対象の相互作用から生まれる「相互作用の性質」として位置づけることが必要不可欠だとしている。その概念を活かすと、下記の用例には色を描写する疊語の意味用法をより詳細に説明することが可能であろう。

(9) まだ髪は黒々としている。(例5の再掲)

(10) 妈妈的头发黑黑的。(例6の再掲)

(9)の「黒々」は誰かの髪の色を描写し、(10)の“黒黒”は母の髪の色を描写する用法である。一般的には、相手(対象者)の髪色が相手の属性の一部として内在する特徴でもあり、話者が視覚を通して新たな情報として理解する必要がないと考えられる。しかし、(9)と(10)は相手(対象者)の髪色がその性質として話者が視覚を通して新たな〈強調〉という意味が読み取れる。話者が視覚を通して新たな〈強調〉意味は、(9)は「黒くて美しい、艶のある」と解釈でき、(10)の「母の年齢に似つかわしくないほどまだ黒色」という予想外にあって、「黒さ」を強調すると考えられる。その観点を受け、「黒々」と「黒黒」の意味記述と用法を考察する必要がある。まずは、辞書における「黒々」と「黒黒」の意味記述を抽出する。そして、辞書で記述されていなかった用法、意味解釈を説明するため、コーパスによる使用実態を調査する。母語話者の使用実態が反映される『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』と『北京大学中国語学研究中心語料庫検索システム:ネットワーク版(CCL)』という2つのコーパスを使用する。抽出した「黒々」の用例は217例であり、手作業によりすべての用例が正しいことを確認した。『CCL』では、『BCCWJ』のように詳細な設定が不可能であるため、検索のところに“黒黒”を入力し、534例を抽出した²¹。本稿は共起する名詞を持つ性質から共通の概念を括りだすことに着目するため、『分類語彙表²²』を用いて、分類を試みる。コーパスから共起する名詞の特徴は『分類語彙表』に基づき、「1.1抽象的關係」、「1.2人間活動の主体」、「1.3人間活動—精神および行為」、「1.4人間活動の生産物—結果および用具」、「1.5自然—自然物および自然現象」という5つのグループに分類する。そして、各グループから意味解釈を分析する。最後には、考察を通し、現代語における「黒々」と“黒黒”の意味・使用を分析し、対応関係を示す。具体的には、4つの課題を設定する。

1. 辞書による日中両言語における色彩語の疊語と基本形式の意味記述はどう繋がっているのか。
2. コーパスによる日中両言語における色彩語の疊語の使用実態はどうなっているのか。
3. 特徴的な色彩語の疊語の用法はどう意味解釈ができるのか、基本形式との相違はあるのか。
4. 用法や意味における日中両言語における色彩語疊語の対応関係はどう捉えられているのか。

²⁰ 河野(2003)では、「あの国は危ない」という例文を挙げ、以下のように説明する。国の政治情勢や治安が不安定状況にあって、その状況を踏まえて人がその国に行く危険性があると感じる。つまり、「(危険を引き起こす原因となる)国の政治情勢や治安が不安定→自分の身に危険を感じる」というフレームを前提に理解されており、2つの「危ない」はそのどちらの状況も指すことができる。

²¹ 本稿で使われる「黒々」と“黒黒”のデータは2020年1月6日検索されたものである。

²² 柏野(2006)では、『分類語彙表』は、語彙の分布や偏りを見る特徴を持ち、「語が本来もつ性質によって分類することを優先する」という属性分類を採用しているとされている。

4. 考察

「黒々」と“黒黒”の意味は基本形式「黒」と“黒”のある意味を軸に、それと異なる関連した意味に拡張していくのか、それと類する関連した意味に縮小していくのか、あるいは他の関連の仕方にあるのかという点について考察していく。畳語と基本形式の間にどのような意味の体系性があるのかを考察するため、日本語と中国語の辞書からそれぞれ、「黒」と“黒”の意味を抽出し、表1と表2のようにまとめる（4—1節）。一方、辞書では「黒々」と“黒黒”があまり記述されず、特に“黒黒”を見出し語とする記述は管見の限りでは見当たらない。4—2節では、まずコーパスから畳語の用法、意味特徴を論じる。次に、知覚者と知覚対象の相互作用という観点から、「黒々」と“黒黒”における事物を描写する際の、基本形式との関係（拡張・縮小）を考察する。

(4—1) 辞書から見る意味記述

日本語の辞書における「黒」と「黒々」の意味記述を見る。『日本国語大辞典』、『デジタル大辞泉』、『広辞苑』という3冊の辞書から「黒」と「黒々」の意味記述を取り上げる。「黒」と「黒々」の判断となる五感のうち、視覚を前提としたある時空のもとに存在する「対象の性質・特徴」を描写する意味を抽出する。抽出した意味記述を表1にまとめる。

表1 日本語の辞書における「黒」の意味記述

辞書	意味記述
『日本国語大辞典』	①色の名。木炭や墨のような色。 ②黒色の馬。黒毛の馬。 ③碁の黒石。
『デジタル大辞泉』	①色の名。墨・木炭のような色。黒色。 ②黒い碁石。また、それを持つほう。先手。
『広辞苑』	①色の名。墨のような色。 ②囲碁で、黒石の略。

表1では、基本形式である「黒」は視覚を通じ、具体物の「木炭」や「墨」などの色と記述されている。「木炭」や「墨」などの具体物は黒色である。つまり、「黒」が修飾する具体的な対象と一対一の恒常的な描写表現であり、一般常識として共用されている。例えば、「東アジア、南アジア、太平洋諸島のほとんどの国で主に見られる髪の色は黒髪である。」が挙げられる。「黒」はある地域・社会で生まれる人種の髪色を描写することにより、特徴が付けられている。対象が特定される場合においては、その答えが固定される。つまり、誰が聞いても、基本的には東アジア、南アジア、太平洋諸島の人の髪色は「黒」であるという答えになるといえる。そのため、「黒」は〈黒色〉と〈黒色に近い色〉というものの性質・状態を表す際に、話者または知覚者としての「私」を主語にとることは困難であろう。「*私はこの木炭が黒色である」のように、第一人称「私」を主語に取りにくいと考えられる。

表2 日本語の辞書における「黒々」の意味記述

辞書	意味記述
『日本国語大辞典』	はなはだしく黒いさまを表す。
『デジタル大辞泉』	非常に黒いさま。真っ黒なさま。
『広辞苑』	はなはだ黒いさま。

先行研究では、黒色を意味する場合と、事物の様子を描写する場合には「黒々」が〈強調〉という意味を表すと述べている。表2は、辞書から抽出した「黒々」の意味記述である。「黒々」は「甚だしい」や「非常に」などの程度副詞を用い、黒さを強調する意味記述が見られる。また、表1との関連性も見られる。「黒々」は基本形式である「黒」を表す〈黒色〉という意味を受継ぐことが分かった。

次節では、辞書から考察できなかった「黒々」の用法及び、〈強調〉以外の意味記述などをコーパスの用例を用いて考察する。

中国語の辞書における“黒”と“黒黒”の意味記述を見る。『中日大辞典』、『講談社中日辞典』、『中日辞典』という3冊の辞書から“黒”と“黒黒”の意味を取り上げる。しかし、3冊の辞書を調べたところ、“黒黒”の記述がないことが分かった。表3では、各辞書から、基本形式の“黒”の意味記述を述べる。

表3 中国語の辞書における“黒”の意味記述

辞書	意味記述
『中日大辞典』	①(色)黒(い);黒色(の)。②暗い(くなる)。
『講談社中日辞典』	①黒い。②暗い。③夜;夜中。
『中日辞典』	①黒い。②暗い。

表3の中国語での意味記述に示したように、視覚による“黒”は〈黒色〉だけではなく、〈暗い〉という意味も表せる。まずは、基本形式である「黒」は視覚を通じ、具体物の「木炭」や「墨」などの色と描写されている。「黒木炭(黒い木炭)」、「黒墨(黒墨)」などの用法は中国語においても使える。また、「東アジア、南アジア、太平洋諸島のほとんどの国で主に見られる髪の色は黒髪である。」を中国語に訳しても同様に“黒”を使え、「黑发是东亚, 南亚和太平洋岛屿大多数国家常见的发色²³。」となる。つまり、“黒”が修飾する具体的な対象と一对一の恒常的な描写表現であり、一般常識として共用されている。“黒”は〈黒色〉と〈黒色に近い色〉と〈暗い〉というものの性質・状態を表す際に、話者または知覚者としての「私」を主語にとることは困難であろう。“??我觉得那是黒木炭。(私はそれが黒い木炭だと思う)”のような、自分を主語が取りにくい。元々、木炭の色は「黒色」であるため、話者の判断による何か新しい情報として描写する必要がないと思われる。

辞書による考察から、「黒々」と“黒黒”の用法または意味記述が十分ではないと確認されるが、「黒」と“黒”の用法または意味記述がどう対応しているのかが分かった(表4)。

表4 基本形式である「黒」と“黒”の対応関係

	「黒」	“黒”
使用用法	具体的な対象と一对一の恒常的な描写表現であり、一般常識として共用されている。	
意味記述	①「黒色」②「黒色に近い色」	①「黒色」②「黒色に近い色」 ③「暗い」

表4から分かるように、「黒」と“黒”の用法は具体的な対象と一对一の恒常的な描写表現であり、一般常識として共用されている。「黒」と“黒”は〈黒色〉と〈黒色に近い色〉という2つの意味が類似している。“黒”はもう1つ〈暗い〉という意味を表せる。辞書で記述されていない内容、また用法と意味解釈については次節で詳しく論じる。

(4-2) コーパスから見る「黒々」と“黒黒”の用法

コーパスから疊語である「黒々」と“黒黒”を用いる例文を収集し、考察を行う。「黒々」、「黒黒」と共起する名詞を『分類語彙表』の基準として分類した。「1.名詞の仲間-体の類」は人間活動に関するものと、そのあり方の枠組みに関するものに大きく分けられる。それぞれ「1.1抽象的關係」、「1.2人間活動の主体」、「1.3人間活動-精神および行為」、「1.4人間活動の生産物-結果および用具」、「1.5

²³ 筆者による中国語の訳である。訳文は中国語母語話者に例文の意味を確認してもらった。

自然—自然物および自然現象」である。5つの分類項目の説明を以下のように引用する。

- (1.1) は、事実、存在、状態、力、変化、空間、時間、形、数量を含むもの。
- (1.2) は、人間活動に関するものは、活動の主体であるもの。
- (1.3) は、人間活動そのものの様相—精神と行為のもの。
- (1.4) は、人間活動の相手として存在するもの、になるが、活動の相手は、人間が直接に活動の結果として作り出した物および作り出すために利用するもの。
- (1.5) は、人間の主体的活動からは比較的自由に、外界として存在するもの。

（『分類語彙表』2004:12）

『分類語彙表』の基準に従い、抽出した「黒々」の217例と“黒黒”の534例を5つのわく組みに分類し、その割合を分析した結果を図1に示した。

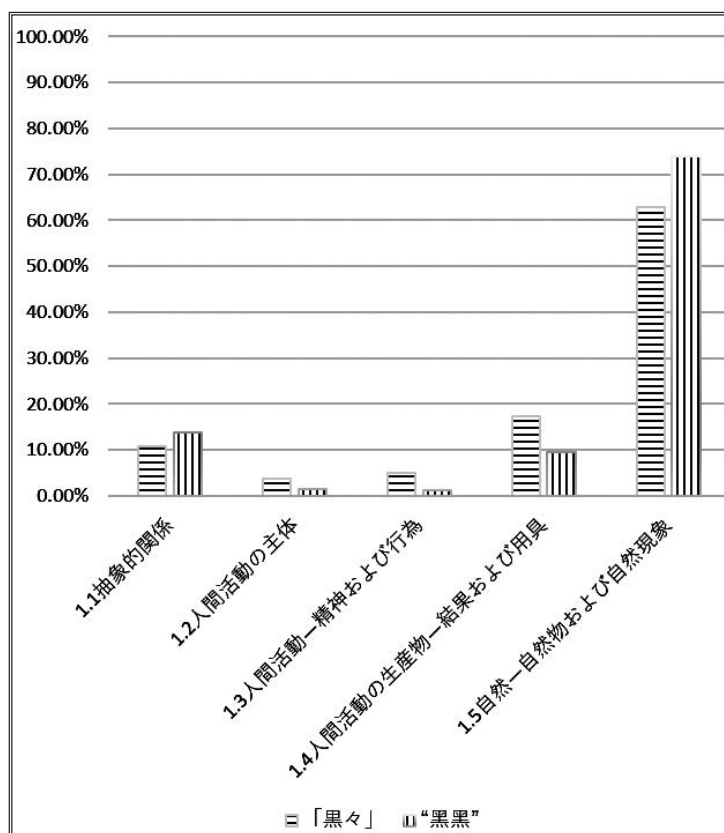


図1 「黒々」と“黒黒”の分類項目

「黒々」と共起する名詞の性質は「1.5自然—自然物および自然現象」は最も高く62.82%を占めている。その次は「1.4人間活動の生産物—結果および用具（17.31%）」、「1.1抽象的關係（10.9%）」、「1.3人間活動—精神および行為（5.12%）」、「1.2人間活動の主体（3.85%）」となった。一方、“黒黒”と共起する名詞の性質は「1.5自然—自然物および自然現象」は最も高く74.03%を占めている。その次は「1.1抽象的關係（13.73%）」、「1.4人間活動の生産物—結果および用具（9.46%）」、「1.2人間活動の主体（1.48%）」、「1.3人間活動—精神および行為（1.30%）」となった。

以上から、「黒々」と“黒黒”における意味用法の相違点が明らかになった。「黒々」と“黒黒”は「1.5自然—自然物および自然現象」に属する名詞とよく共起し、基本的な用法が類似している。その

次は、「黒々」と“黒黒”は異なる用法が見られる。「黒々」は「1.4人間活動の生産物—結果および用具」といった名詞と共起し、“黒黒”は「1.1抽象的關係 (13.73%)」といった名詞と共起する。「黒々」と“黒黒”は具体的にどんな名詞と共起しているのかを分類項目ごとに挙げてみる (表5)。

表5 「黒々」と“黒黒”と共起する名詞

分類項目	「黒々」	“黒黒”
1.1 抽象的關係	闇、空気、空…	夜、夜空、天 ²⁴ …
1.2 人間活動の主体	女、男、人…	男孩子、人群、一片人 ²⁵ …
1.3 人間活動—精神および行為	恐怖、不安、呪い…	心境、世界里的苦作、眼前 ²⁶ …
1.4 人間活動の生産物—結果および用具	墨跡、建物、文字…	墨水、油漬、弯钩 ²⁷ …
1.5 自然—自然物および自然現象	樹木、川、森…	灌木、山道、林丛 ²⁸ …

表5について説明する。「1.1抽象的關係」を描写する場合、「黒々」は「闇」、「空気」、「空」などの名詞と共起する。中国語では“夜 (夜)”、“夜空 (夜空)”、“天 (空)”であり、「黒々」と類似している。「1.2人間活動の主体」を描写する場合、「黒々」は「恐怖」、「不安」、「呪い」などの名詞と共起する。中国語では“男孩子 (男の子)”、“人群 (人集り)”、“一片人 (人集り)”であり、「黒々」と類似している。「1.3人間活動—精神および行為」を描写する場合、「黒々」は「恐怖」、「不安」、「呪い」などの名詞と共起する。中国語では“心境 (心境)”、“世界里的苦作 (世の中にある苦情)”、“眼前 (目の前)”である。「1.4人間活動の生産物—結果および用具」を描写する場合、「黒々」は「墨跡」、「建物」、「文字」などの名詞と共起する。中国語では“墨水 (インク)”、“油漬 (油汚れ)”、“弯钩 (鉤)”である。「1.5自然—自然物および自然現象」を描写する場合、「黒々」は「樹木、川、森」などの名詞と共起する。中国語では“灌木 (低木)”、“山道 (低木山道)”、“林丛 (森)”である。

以上の考察から、日本語の疊語と中国語の疊語との対応関係がどうなっているのかが明らかになった。まずは、「黒々」と“黒黒”は「1.5自然—自然物および自然現象」に属する名詞とよく共起するため、基本的な用法であると考えられる。また、「黒々」と“黒黒”の基本的な用法が一致し、共起する名詞も類似している。さらに、「黒々」と“黒黒”は異なる用法が見られる。「黒々」は「1.4人間活動の生産物—結果および用具」といった名詞と共起し、“黒黒”は「1.1抽象的關係 (13.73%)」といった名詞と共起することが分かった。

(4-3) コーパスから見る「黒々」と“黒黒”の意味解釈

4-1節の考察から分かるように、「黒」と“黒”は〈黒色〉と〈黒色に近い色〉という2つの意味が類似している。“黒”はもう1つ〈暗い〉という意味を表せる。辞書で記述されていない「黒々」と“黒黒”の意味解釈については、4-2節で観察された用法に従い、それぞれの意味を解釈する。

まずは、「黒々」と“黒黒”が類似している「1.5自然—自然物および自然現象」に属する名詞と共起する用例を考察し、意味を分析する。そして、「黒々」がよく使用される「1.4人間活動の生産物—結果および用具」に属する名詞と共起する用例を考察し、意味を分析する。また、「黒黒」がよく使用する「1.1抽象的關係」に属する名詞と共起する用例を考察し、意味を分析する。さらに、先行研究で取り上げる問題である人間の感覚・感情を描写する（「1.3人間活動—精神および行為」の用法に

²⁴ 「夜、夜空、空」と訳す。

²⁵ 「男の子、人集り、人集り」と訳す。

²⁶ 「心境、世の中にある苦情、目の前」と訳す。

²⁷ 「インク、油汚れ、鉤」と訳す。

²⁸ 「低木、低木山道、森」と訳す。

分類される)用例を考察し、意味を分析する。日本語の暈語と中国語の暈語との意味関係がどう対応しているのかを結果としてまとめる。

まずは「黒々」と「黒黒」は「1.5自然—自然物および自然現象」を描写する際に、意味がどう解釈できるのかを分析する。『BCCWJ』から抽出した(11)～(13)は「黒々」の意味分析にあたる用例である。『CCL』から抽出した(14)～(16)“黒黒”の意味分析にあたる用例である。各自の意味解釈を分析したうえで、両言語の差異を明らかにする。

- (11) 黒々とした樹木が頭上に大きく枝を伸ばし、植え込みがある。(BCCWJ)
 (12) 川は黒々としている。水に映った街灯が白く揺れている。(BCCWJ)
 (13) そこだけが黒々とした森になっているが、あとは鬼怒川から引いた水路がどこまでも走る田の里。(BCCWJ)

(11)～(13)は「樹木」と「川」と「森」のような自然風景の描写用法である。「樹木」は緑色であり、「川」は水色または緑色であり、「森」は土色であるのが一般的である。しかし、(11)～(13)においては、話者が直観的に思いつくような色を使わず、「黒々」を用いてそれぞれの自然風景を描写している。『BCCWJ』を調べたところ、「黒い樹木」は1例であり、「黒い川」は例がなく、「黒い森」は20例があった。よって、「樹木」と「川」と「森」は「黒色」という性質・属性に内在するわけではない。ここでは、話者(知覚者)は視覚を通して「目の前にある自然風景が何であるのか」という個人の判断で意味が動機付けられると考えられる。(11)～(13)における自然風景の性質・属性は知覚者と知覚対象の相互作用から生まれる「相互作用の性質」として意味を表す。「黒々とした樹木」という例文は樹木の生命力を感じ、ワイルドな雰囲気があって、その状況を踏まえて樹木の勢いが〈生気があふれている²⁹⁾〉とを感じる。つまり、「黒々」は自然風景を描写する用法においては、自然風景の生命力や勢いなどが〈生気があふれている〉というフレームを前提に理解され、本来の色の制限から解除される。

- (14) 漫长的队伍，蜿蜒在黑黑的山道上，好似永也走不完似的³⁰⁾。(CCL)
 (15) 门两边各有一丛黑黑的灌木³¹⁾。(CCL)
 (16) 我悄悄的逃到这黑黑的林丛³²⁾。(CCL)

(14)～(16)は「山道」と「低木」と「森」のような自然風景の描写用法である。『CCL』では、「黒的山道(黒い山道)」、「黒的灌木(黒い低木)」、「黒的林丛(黒い森)」を検索したところ、1例もなかった。そのため、「山道」と「低木」と「森」は「黒色」という性質・属性に内在するわけではない。しかし、日本語の「黒々」と同様に、話者(知覚者)が視覚を通して「目の前にある自然風景が何であるのか」という個人の判断で意味が動機付けられていると考えにくい。辞書で考察した中国語の「黒」にはもう1つ「暗い」という意味があることが分かっており、(14)～(16)における「黒黒的」はその「暗さ」を強調する意味だと考えられる。(14)を挙げて説明する。(14)は話者が山の奥に延々と暗い山道を歩き、終わりが見えない様子を表す。つまり、「黒黒」は自然風景を描写する用法においては、基本形式である「黒」を引継ぎ、〈暗さの強調〉という意味を表す。

以上の考察により、「黒々」と「黒黒」は同様に「自然—自然物および自然現象」を描写する用法が見られる。しかし、「自然—自然物および自然現象」を描写する際に、「黒々」と「黒黒」は異なる意味で解釈される。「黒々」は自然風景を描写する用法においては、自然風景の生命力や勢いなどが〈生気があふれている〉というフレームを前提に理解され、本来の色の制限から解除される。「黒黒」の

²⁹⁾ 筆者による解釈である。

³⁰⁾ 「隊列を組んで歩く。暗く長細い山道は延々と続く。」と訳す。

³¹⁾ 「門の両側に暗い低木がある。」と訳す。

³²⁾ 「私はこっそりとこの暗い森の奥に逃げていた。」と訳す。

自然風景を描写する用法においては、基本形式である“黒”を引継ぎ、〈暗さの強調〉という意味を表す。

次に、「黒々」と“黒黒”はそれぞれよく使う用法を抽出し、それぞれの意味的な特徴を明らかにする。まずは「黒々」がよく共起する「1.4人間活動の生産物—結果および用具」という用法において、どう解釈できるのかを分析する。ここでは、「黒々」は「文字」と「建物」と共起する用例を挙げる。

(17) すみで黒ぐろと書かれた〈力いっぱい〉の文字。(BCCWJ)

(18) 左手に黒々とした倉庫らしい建物が続く。(BCCWJ)

(17)と(18)は「文字」と「建物」という人間活動の生産物および用具の描写用法である。『BCCWJ』では、「黒い文字」、「黒い建物」を検索したところ、それぞれ12例、2例があった³³。しかし、「文字」と「建物」という人に作られたものの描写を修飾する場合、特定の色に限定することが困難である。例えば、「赤い文字」、「青い建物」などが挙げられる。つまり、「文字」と「建物」という人に作られたものは内在する属性の中に色が含まれていない。そこで、文脈による人に作られたものに色の制限を作る必要があると考えられる。(17)は、墨という道具を用いて、文字の色が限定される。(18)は、左手にある建物の色が限定される。つまり、「黒々」が人間活動の生産物および用具を描写する用法においては、基本形式である「黒」を引継ぐが、特定な文脈制限による〈黒色〉という意味を表す。

そして、“黒黒”がよく共起する「1.1抽象的關係」という用法において、どう解釈できるのかを分析する。ここでは、“黒黒”が「夜」、「空気」と共起する用例を挙げる。

(19) 黒黒的夜、伸手不見五指³⁴。(CCL)

(20) 每晚望着黒黒的夜空在脑中写来写去，似乎还不错³⁵。(CCL)

(19)と(20)は「夜」と「夜空」のような自然風景の描写用法である。「夜」と「夜空」の色は黒色であるのが一般的である。(19)は“黒夜(夜空)”に置き換えられ、(20)は“漆黒的夜空(真っ暗な夜空)”または“黒的夜空(黒い夜空)”に置き換えられる³⁶。「夜」と「夜空」は「黒色」という性質・属性に内在するわけである。よって、(19)と(20)においては、“黒黒”とも“黒”とも使用できるし、〈黒色〉という意味が解釈される。

さらに、先行研究で取り上げる問題である人間の感覚・感情を描写する(4—1節で考察した「1.3人間活動—精神および行為」という用法に相当する)用例を考察し、意味を分析する。以下では、『BCCWJ』と『CCL』から抽出した用例を取り上げ、「黒々」と“黒黒”の意味を解釈する。

(21) 英雄を襲うのは、黒々とした死の闇である。(BCCWJ)

(22) 間違いなく一自分の夫を刺し殺した男。黒黒とした不安にゾクッと身震いした。(BCCWJ)

(23) 而他们(也许是所有的人)对他却有深入骨髓的了解，一想到这一点就眼前黒黒的，沮丧得要死³⁷。(CCL)

(24) 皮普准呆呆地走到街上，突然觉得失去了一切希望，眼前黒黒的³⁸。(CCL)

³³ 「黒い文字」は12例、「黒い建物」は2例であり、2020年10月4日に抽出した用例である。

³⁴ 「夜が暗くて、五本の指さえ見えなかった。」と訳す。

³⁵ 「毎晩、黒い夜空を見つめて考えながら書いていて、悪くなさそうである。」と訳す。

³⁶ “黒夜”は2972例、“漆黒的夜空”は28例、“黒夜空”は2例であり、2020年1月18日に抽出した用例である。

³⁷ 「彼ら(全員かもしれない)は彼のことがよく分かっている。それを思い出したとき、彼は目の前が真っ暗になって落ち込んでしまった。」と訳す。

³⁸ 「皮普准さんはポーッとしながら道を歩いているとき、突然希望を失ったと感じ、目の前が真っ暗になってしまった。」と訳す。

(21) ~ (24) の対象は具体的な物ではないため、基本形式を表す黒色の性質・属性と解釈できない。これらの状況は恒常的ではなく、文脈において話者（知覚者）が目の前の状況にどう感じるのかを描写し、一時的な用法として使われる。そこで、話者（知覚者）と知覚対象の相互作用により、(21) ~ (24) における畳語の意味を解釈してみる。(21) ~ (24) は「死の闇」、「不安」、「失望」、「希望がない」というよくない状況があって、話者（知覚者）がこれから発生する出来事または将来のことなどが「何か（悲惨な事件）が起きる」というフレームを前提に理解され、〈よくない〉というマイナスな意味が生じる。(22) を挙げて説明する。「間違いなく一自分の夫を刺し殺した男」という前文があるため、話者（知覚者）はその状況を理解したうえで、これから発生する出来事を想像し、よくないと感じた。(24) を挙げて説明する。「希望がなくなった」という文脈があるため、話者（知覚者）はその状況を理解したうえで、これから発生する出来事を想像し、よくないと感じた。つまり、「黒々」と“黒黒”は基本形式を表す「黒色」という性質・属性から離れ、人間の感覚・感情を描写する用法においては、「何かが起きる」という出来事を前提に〈よくない〉というマイナスな意味を表す。

5. まとめと今後の課題

本稿では、辞書による考察から、「黒々」と“黒黒”の用法または意味記述が十分ではないことが判明した。基本形式である「黒」と“黒”は修飾する具体的な対象と一対一の恒常的な描写表現であり、一般常識として共用されている。「黒」と“黒”は「黒色」と「黒色に近い色」という2つの意味が類似している。“黒”にはもう1つ「暗い」という意味が表せる。

また、『BCCWJ』と『CCL』から「黒々」と“黒黒”と共に起る名詞を抽出し、意味用法の相違点が明らかになった。「黒々」と“黒黒”は「1.5自然—自然物および自然現象」の場面において、よく使用される傾向がみられた。「黒々」は自然風景を描写する用法においては、自然風景の生命力や勢いなどが〈生気があふれている〉というフレームを前提に理解され、本来の色の制限が解除される。“黒黒”は自然風景を描写する用法においては、基本形式である“黒”を引継ぎ、〈暗さの強調〉という意味を表す。その他に、「黒々」は「1.4人間活動の生産物—結果および用具」の場合において、使用しやすい傾向がみられた。「黒々」と共起しやすい人間活動の生産物および用具を描写する用法においては、基本形式である「黒」を引継ぐが、特定の文脈制限による〈黒色〉という意味を表す。一方、“黒黒”は「1.1抽象的關係」の場合において、使用しやすい傾向がみられた。“黒黒”と共起しやすい抽象的關係を描写する用法においては、基本形式である“黒”を引継ぎ、性質・属性に内在〈黒色〉という意味が解釈される。「黒々」と“黒黒”は特徴的な用法として人間の感覚・感情を描写し、「何かが起きる」という出来事を前提に〈よくない〉というマイナスな意味を表す。

以上の考察により、「相互作用的性質」という概念を用いて、「黒々」と“黒黒”が事物を描写する際の、外在的な特徴（黒色）だけではなく、知覚者から感覚の持ち主をあえて顕在化することができ、畳語の意味がより詳細に説明する可能性を示した。その観点を受け、「黒々」と“黒黒”の意味は基本形式との使い分けが解明されるし、用法と意味関係を図示すると、次のようになる。

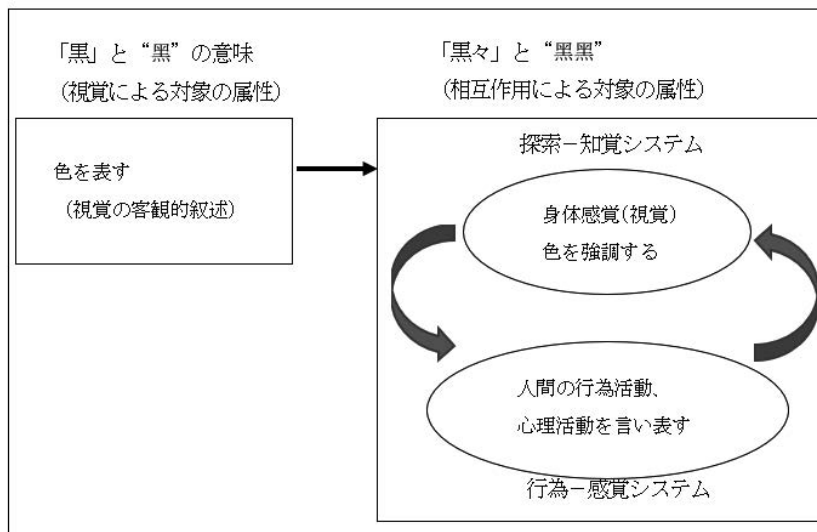


図2 日中両言語における色彩語の「黒」「黒」と「黒々」「黒黒」の意味拡張

図2では、基本形式の「黒」と「黒」は〈黒色〉を表す客観的な叙述が基本的な意味用法である。その基本的な意味用法に基づき、疊語の「黒々」と「黒黒」の意味が拡張される。日本語の場合は「黒々」がよく使用される「1.5自然—自然物および自然現象」と「1.3人間活動—精神および行為」の場面では、色から離れ、より人間の行為、心理活動を言い表す意味と解釈できる。また、「1.4人間活動の生産物—結果および用具」の用法には、色の意味を受継ぎ、人間の視覚を通して色の強調を言い表す意味と解釈できる。それに対して、中国語の場合は、「黒黒」がよく使用される「1.5自然—自然物および自然現象」と「1.1抽象的關係」の場面では、色の意味を受継ぎ、人間の視覚を通して色の強調を言い表す意味と解釈できる。また、「1.3人間活動—精神および行為」の用法には、色から離れてより人間の行為、心理活動を言い表す意味と解釈できる。よって、日本語の「黒々」は中国語の「黒黒」に比べて、話者の主観的な捉え方による拡張した意味用法がよく使用されることが明らかになった。

本稿では、色彩語の疊語を対象とし、元の語との意味拡張及び文脈における知覚者による相互作用を明らかにするための、1つの研究方法を提案した。ただし、「相互作用の性質」という概念を用い、色彩語の疊語への解釈がより詳細な説明が必要であるため、図2に基づき、より精緻化していく。また、分析を通じて、意味用法においては、日本語の「黒々」と中国語の「黒黒」との間に類似関係が確認される。しかし、「白白」と「白白」、「赤々」と「紅紅」など、今回扱うことができなかった類似の疊語表現については今後の課題としたい。

参考文献

- 秋元美晴 (2005) 「複合語」『新版日本語教育事典』日本語教育学会 (編), pp. 241-243, 大修館書店。
石井正彦 (2007) 「疊語」飛田良文・遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・蜂谷清人・前田富祺 (編)『日本語学研究事典』, p. 171, 明治書院。
石川慎一郎 (2017) 「X々型疊語の構造・使用・意味特性：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いた計量的調査」『統計数理研究所共同研究レポート』(373/374), pp. 55-74。
禹吳穎 (2015) 「疊語の諸機能」『人文科学論集』(24), pp. 25-57, 学習院大学。
大里彩乃 (2013) 「疊語の研究」『言語文化研究』(22), pp. 1-16, 東京女子大学言語文化研究会。
河野哲也 (2003) 『エコロジカルな心の哲学』東京：岩波書店。
柏野和佳子 (2006) 「研究所報告『分類語彙表』の特徴と位置付け」『日本語科学』(19), pp. 143-160,

国書刊行会.

篠原俊吾 (2008) 「相互作用と形容詞」『ことばのダイナミズム』森雄一・西村義樹・山田進・米山三明 (編), pp. 89-104, くろしお出版.

玉村文郎 (1988) 「複合語の意味」『日本語学』第7巻5号, pp. 46-49, 明治書院.

陳祥 (2020) 「日本語の語彙的反復表現の意味拡張及び認知プロセスについて—『白・白い・白々・白々しい』を対象として—」『国際日本研究』(12), pp. 198-207, 筑波大学.

田梅 (2014) 「現代語疊語・疊語形容詞の構造について: 現代中国語、日本語の疊語・疊語形容詞」『大学教育』(11), pp. 76-87, 山口大学大学教育機構.

外国語の参考文献

石椋 (2010) 『汉语形容词重叠形式的历史发展』商务印书馆.

王峰 (2015) 〈现代汉语单音节形容词重叠 AA 式的原型效应〉《関西外国語大学研究論集》(101), pp. 41-51.

王国栓 (2004) 〈汉语形容词 AA 式重叠与量范畴〉《汉语学习》(4), pp. 24-27.

朱德熙 (1982) 《語法講義》商務印書館.

参考辞書・辞典・コーパスデータベース

『日本国語大辞典』(2001) 小学館国語辞典編集部編集, 第二版, 東京: 小学館.

『分類語彙表』(2004) 国立国語研究所 (編), 増補改訂版, 東京: 大日本図書.

『講談社中日辞典』(2010) 相原茂 (編), 第三版, 東京: 講談社.

『中日大辞典』(2010) 愛知大学中日大辞典編纂所編, 第三版, 東京: 大修館書店.

『大辞泉』(2012) 松村明 (編), 第二版, 東京: 小学館.

『中日辞典』(2016) 北京: 商務印書館・小学館共同編集, 第三版, 東京: 小学館.

『広辞苑』(2018) 新村出 (編), 第七版, 東京: 岩波書店.

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>

『北京大学中国语言学研究中心语料库检索系统 (网络版)』(CCL) http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/

『筑波ウェブコーパス NINJAL-LWP for TWC』(NLT) <http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>